

10:00 11:00	N-A-① 基調講演			
	イノベーションの本質			
一橋大学大学院 国際企業戦略研究科 教授 楠木 建氏				

	自動車	イノベーション/クライシス	グローバル他	会計・税務
11:15 12:15	N-A-② 地区別セッション モビリティの未来 ~Intelligent Mobilityの進化と そのインパクト	N-B-② イノベーションを促進する リーダーシップを獲得する ~持続可能な成長を実現する リーダーに求められるもの	N-C-② 組織・人のグローバル化を 「レゴ化」する ~まだら模様から曼荼羅へ	N-D-② 収益認識基準を読み解く ~“売上高”へ影響する会計基準の 改訂動向
	デロイト トーマツ コンサルティング合同会社 パートナー 周 磊	デロイト トーマツ コンサルティング合同会社 パートナー 土田 昭夫	デロイト トーマツ コンサルティング合同会社 ディレクター キヤメル・ヤマモト	有限責任監査法人 トーマツ パートナー 古内 和明

ランチ

	N-A-③ 基調講演	N-B-③	N-C-③	N-D-③
13:30 14:30	自動車業界のいまと未来 ~岐路に立つ我が国の自動車産業	脅威に対してどう対応して いくのか? ~今、経営に求められるサイバー セキュリティ対策	中国で勝ち抜くための 人材マネジメントを考える ~タレントマネジメントの観点から	IFRS アップデート 2016 ~本邦企業のIFRS 導入状況と 今後の方向性、IFRSアップデートも 踏まえて
	株式会社ナカニ自動車産業リサーチ 代表 兼 アナリスト 中西 孝樹氏	デロイト トーマツ リスクサービス株式会社 代表取締役社長 丸山 満彦 シニアマネジャー 若井 博樹	Deloitte Consulting China アソシエイト ディレクター 降矢 直人	有限責任監査法人 トーマツ シニアマネジャー 岡本 裕司

	N-A-④ 地区別セッション	N-B-④	N-C-④ 地区別セッション	N-D-④
14:45 15:45	自動車業界における サイバーセキュリティ ~サイバー脅威に全方位で挑む	不正発覚時の戦略的 クライシスマネジメントを学ぶ ~会計士と弁護士の視点から グローバル企業が行うべき対応	インドネシアにおける喫緊経営 課題に優位解を見出す ~多様性を理解して成功を勝ち取る ための最新事例	TPP・AECで激変する国際 通商ルールが経営に与える インパクトを紐解く ~短期利益創出と中長期競争優位 獲得に必要な2つのアプローチ
	デロイト トーマツ リスクサービス株式会社 パートナー 泊 輝幸	デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザー合同会社 パートナー 築島 繁 DT弁護士法人 代表社員 内藤 裕史	PT Deloitte Konsultan Indonesia マネジャー 長尾 光宏	デロイト トーマツ コンサルティング合同会社 パートナー 羽生田 慶介

	N-A-⑤ 地区別セッション	N-B-⑤	N-C-⑤	N-D-⑤
16:00 17:00	自動車産業のパラダイムシフト ~社会課題およびイノベーション への対応	取締役会の役割を踏まえ 何を審議すべきか ~変革期にある日本企業の取締役会	地域包括ケア時代の 医療ビジネス戦略 ~医療制度の現在と医療ビジネスの 今後	税務ガバナンス体制を構築し、 税務コストとリスクの削減を 目指す ~今、企業に求められる税務管理
	デロイト トーマツ コンサルティング合同会社 シニアマネジャー 尾山 耕一	有限責任監査法人 トーマツ シニアマネジャー 山内 達夫	有限責任監査法人 トーマツ パートナー 西原 浩文	デロイト トーマツ税理士法人 エグゼクティブ オフィサー ヒールシャー 魁

変革に必要な4つの勘所「しかける(戦略)」、「やりきる(実行力)」、「見通す(情報分析)」、「備える(守備力)」をデロイト トーマツのプロフェッショナルが、それぞれの専門領域から解説します。

- しかける(戦略)
- やりきる(実行力)
- 見通す(情報分析)
- 備える(守備力)

自動車 N-A-②

昨今、ICT製品、サービスの低価格化や産業間の技術の相互利用により、技術イノベーションは飛躍的に加速しています。このような環境下、自動車業界においては2つの大きなトレンド「効率的なクルマの実現」と「モビリティのConnected化・Intelligent化」の渦中にあります。社会・個人のニーズに応えるモビリティの様々な活用シーン、それに伴い創出される新規事業、多様なエコシステムについて解説します。

イノベーション/クライシス N-B-②

景気回復の影響を受けて多くの企業が増益を果たしている一方、今後の成長の礎となる組織・事業の変革はいまだに道半ばではないでしょうか。企業経営にイノベーションを起こし、小手先でなく長期的で持続可能な成長をもたらす変革を牽引する、これからのリーダーシップに求められる資質や能力を、「オープン」「デジタル」「社会」などのキーワードと事例をもとに解説します。

イノベーション/クライシス N-B-③

改正会社法で創設された監査等委員会設置会社に200社超の上場企業が移行したり、コーポレートガバナンス・コードの適用を契機に独立社外取締役の導入・増員が進むなど、日本企業の取締役会を取り巻く環境は、今まさに変革の時期にあります。取締役会の役割・責務は企業統治形態によっても異なりますが、そもそも役割・責務が何か、定義しきれていない企業も見受けられます。そのうえで、取締役会は役割・責務を果たすために何を審議すべきなのでしょう。執行側が上申した議題について意見を述べることで、取締役会の役割を果たしているといえるのでしょうか。また、昨今の企業不祥事例の第三者委員会報告書などにおいて「取締役会にどのような機能を求めているのか」事例から得られる示唆をふまえて、取締役会の議題として審議すべき事項や、取締役会が報告を受けるべき事項について解説します。

グローバル他 N-C-④

インドネシアは急激な経済成長や消費市場の拡大により、日系企業にとって重要なポジションを担うだけでなく存在感を示し始めました。東海エリアからは製造業を中心に二百数十社が進出し事業展開しています。ビジネスを取り巻く諸問題も顕在化してきており、経営の舵取りに苦戦している企業も少なくありません。今回はDeloitteが実施したサーベイ結果をもとに、現地法人が抱える事業オペレーション上の問題や課題は何か?日本本社とのコラボレーションを深化させることにより、どのような打ち手を展開できるのか?事例をもとに解説します。

会計・税務 N-D-③

2009年にIFRSは任意適用によりその採用会社を増やすという方向性が明らかになって5年あまりが経過しました。この5年間の本邦企業の会計基準選択状況を振り返るとともに、今後の方向性について解説します。あわせて、この5年間に導入が決まった収益認識、リースIFRSの新基準について確認するとともに、IFRS導入時の先行企業の教訓などについて解説します。

自動車 N-A-④

コネクティッドカーやIoT、自動運転といったテクノロジーの進化とともに、サイバー攻撃の脅威もますます高まっています。ITネットワークだけではなく、工場設備制御システムや車両制御システム、テレマティクスなど自動車業界が対応しなければならない領域は非常に多岐に渡るため、全方位的に対応を考える必要があります。それぞれの領域においてどのような対策を講じる必要があるのか、あるいは領域共通で取り組むべきことは何なのか、技術的側面とマネジメント側面の両面から解説します。

イノベーション/クライシス N-B-③

インターネットを通じて行われるサイバー攻撃はますます巧妙になってきており、情報漏えい、システム停止などビジネスリスクのひとつとしても経営層が看過できないものとなってきています。本セッションでは、昨今のサイバー攻撃を事例に挙げながら、経営層が理解すべきサイバーセキュリティ対策について説明します。

グローバル他 N-C-②

多くの日系企業の組織・人材は、外国企業買収や外国人人材スカウトによって、部分的に外資化しています。日本的な経営とは異なる、外資的な制度などや人材を取り入れた組織の動きには、今一つ切れがありません。外資的部分を生かすためには、「新しい組織・人材デザイン」が必要です。デザインの肝は、日系の組織と外資的組織の間での「人のつながり方」と「人の動かし方」の差をどう料理するかにあります。料理法(「まだらメソッド」)は意外にシンプル。そのエッセンスをお話します。その中で、グローバルリーダー開発についてもお話します。

グローバル他 N-C-⑤

「病院で見る医療から地域で見る医療へ」の転換が進む日本の医療提供体制の変化の中で、新しいビジネスが生まれ既存ビジネスが衰退しています。本セッションでは、現在と今後の医療制度を俯瞰するとともに、医療ビジネスの今後について経験豊かな医療コンサルタントがその行方を解説します。

会計・税務 N-D-④

日本中の耳目を集めたTPP交渉が2015年ついに大筋合意を迎え、AEC(ASEAN経済共同体)も同年末に具現化しました。これらによる「自社への影響は」という問いに対して、「不明」や「軽微」という回答が少なくないことは、交渉が不成功だったからではありません。理由はひとつ、難解な協定文書を読み解いてビジネスへの示唆を出す「通商とビジネスの間の翻訳」ができていないからに他なりません。本セッションでは、TPP・AECの影響を業界別に具体論で語るとともに、短期利益創出のためのFTA使いこなしソリューションの紹介と中長期競争力強化のためのルール形成の考え方について論じます。

自動車 N-A-⑤

温暖化や交通事故、高齢者の移動問題など社会課題解決に向けた社会の期待、AI、IoT、ビッグデータ、ロボット革命、シェアリングなど押し寄せる技術・事業イノベーションの潮流がトリガーとなり、自動車産業は今後、大きなパラダイムシフトをむかえることとなります。本セッションでは、そうしたトリガーにより自動車産業がどのような変化を遂げていくか、またその変化に備えるべく、産業としていかなる対応が求められるかについて解説します。

イノベーション/クライシス N-B-④

昨今、会社の役員・従業員による不祥事案が増加しています。しかも、国内に限らず海外子会社や海外の行政当局との関係で問題となる事案が当たり前になりつつあり、それに伴って制裁金や罰金額も上昇する一方です。本セッションでは、不正調査対応、国内外の行政当局対応、クライシス時における対内・対外的なコミュニケーションについての経験豊富な公認会計士と弁護士が、それぞれの立場からグローバル化した不祥事案にどのように対応すべきか解説します。

グローバル他 N-C-③

中国では、人件費も年々上がり、学校数の増加などにより人材の質にばらつきも増えていく中、日系企業は優秀人材の特定・育成、現地化、不活性人材の退出などの古くて新しい課題にどのように取り組むべきか。人材マネジメントに成功していると言われる外資系企業や日系企業の先進事例を交えながら、タレントマネジメント、人事制度などの側面などから求められる解決策の解説をします。

会計・税務 N-D-②

収益(売上高)の会計基準について、我が国ではこれまで詳細な定めがなく、実現主義の原則や関連する税法などの規定を基に実務上の運用がなされてきました。しかし、国際財務報告基準(IFRS)第15号「顧客との契約から生じる収益」が2018年度より適用となることを受け、我が国においても新たに包括的な収益認識に係る会計基準を定める動きが加速しています。本セッションでは、基準改訂の動向および我が国企業において予想される影響について解説します。

会計・税務 N-D-⑤

コーポレートガバナンスに関し経営陣の責任がより深刻に問われる現在においても、税務業務にガバナンスが効いていない企業が多いです。経営パフォーマンスに対する視線が厳しくなって来た今、企業は税務ガバナンスをグローバルに、戦略的に取り組む姿勢が必須です。近年、日本企業でも先進的な企業は税務部門の強化を加速しています。本セッションでは、国内外の実例も交えて、パフォーマンスとリスク・コンプライアンスのバランスを保ちながら、税務ガバナンス体制を構築する要諦を解説します。